五・三　薬王山法海寺略縁起

「寺本（八幡）のオヤクッサン」と呼ばれ皆様に尊び親しまれている薬王山法海寺は、薬師如来を御本尊に祀り、現世利益を祈願する天台宗の古刹であり、日本三薬師［奈良　法隆寺（一説には、信州　諏訪大社　本地仏）、三河　鳳来寺及び寺本（しらぎのくにめいしんのう）法海寺］の一つとされている。

法海寺の開基は、新羅国明信王の太子の道行法師といわれ、由緒は「日本書紀」巻二七の天智（てんじ）天皇七年の条につながっている。そこには、「沙門道行、草薙劔を盗みて新羅に逃げ向く、而して中路に雨風にあいて、荒迷ひて帰る」と道行の名前が登場している。後世に編纂された寺伝の「薬王山法海寺儀軌」によれば、この後、この沙門道行は帰国を断念し当地に堂宇をいとなんでいた。そして、天智天皇の御不例を当山御本尊に祈願して平癒した功によって、「薬王山法海寺」の勅額と寺田二八〇町歩を賜った。

時に、天智七（六六八）年、八月三日の創建とされ、以降、淳和（じゅんな）天皇に至る十三代の勅願寺として堂宇壮観、内外十二院があったと伝えられている。千三百有余年の歴史を裏付ける有力な事象が、その信憑性を物語っている。

草薙劔の行方　盗難後宮中に保管されていたが、天武天皇朱鳥（あかみとり）元（六八六）年に熱田の宮に返還、このときの祭事が「酔笑人神事（えようどしんじ）」として現在も伝承

時代考証　白鳳期の蓮華文瓦が境内から出土

寺宝文化財　二千年以上昔の仰臥伸展葬の人骨三体を境内から発掘
平安・鎌倉・室町期などの県・市指定文化財十四点保有
仁王門、毘沙門天像を除いて、知多市歴史民俗博物館に寄託

年中行事　修正会（一月三日）、薬師大祭（十一月八日）
除夜薬師大護摩（十二月三十一）が古式に則り伝承

郷土の貴重な文化遺産を保護し後世へ継承するため、現在の本堂は平成四年に再建、仁王門と仁王尊像は平成二十二年に、全面的に解体したのち修復復元された。

平成十四年　本堂再建十周年記念之建

平成二十二年　知多市制四十周年記念之改